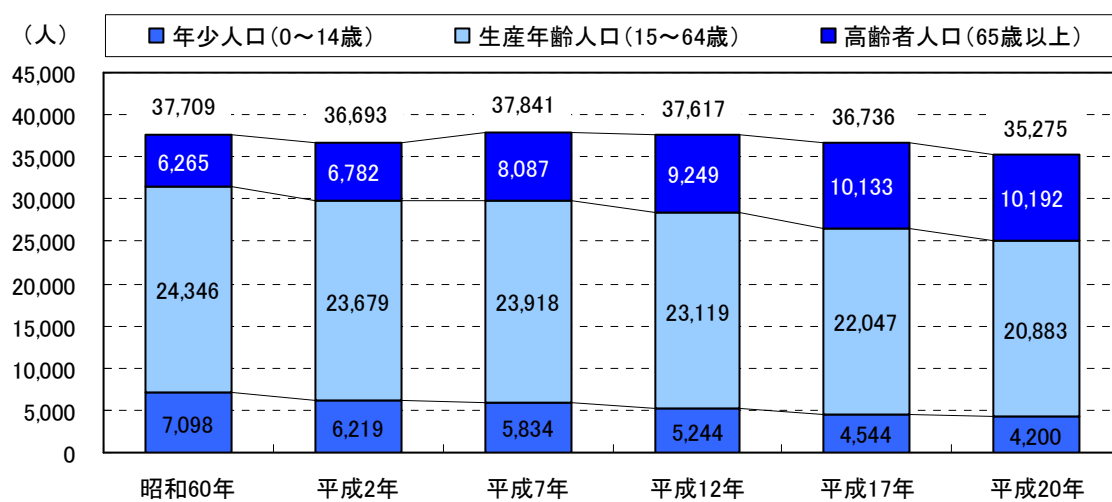


## 第2章 南丹市を取り巻く現状

### 1. 総人口の推移

南丹市の総人口をみると、平成20年には35,275人であり、増減しながら、緩やかに減少しています。

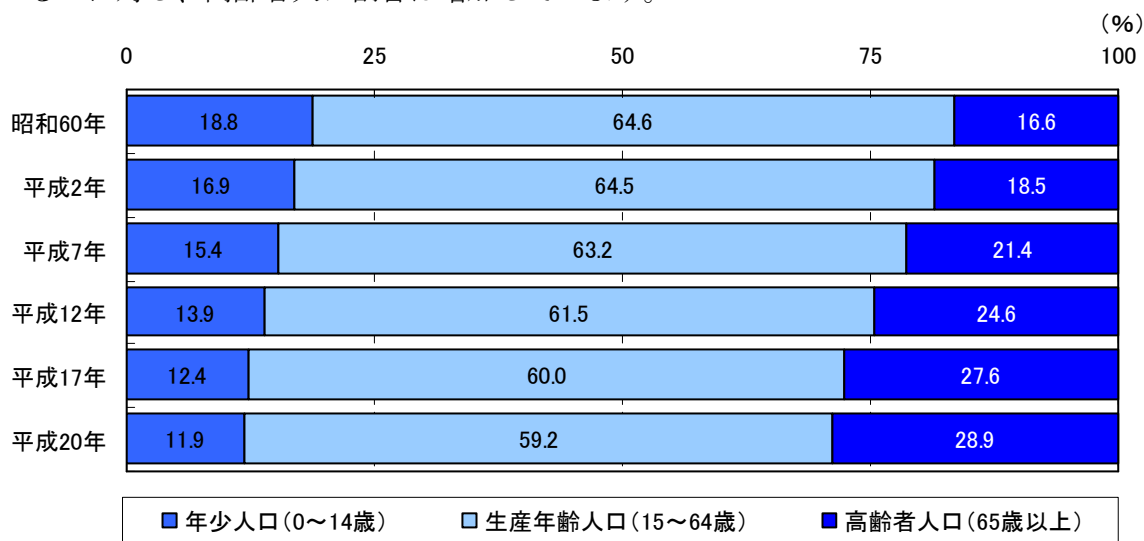


(資料:国勢調査 平成20年のみ住民基本台帳10月末)

※ 総人口には年齢不詳を含むため、年齢3区分別人口の合計と総人口は異なる。

### 2. 年齢3区分別人口構成比の推移

年齢3区分別人口構成比の推移をみると、年少人口割合、生産年齢人口割合が減少しているのに対し、高齢者人口割合は増加しています。



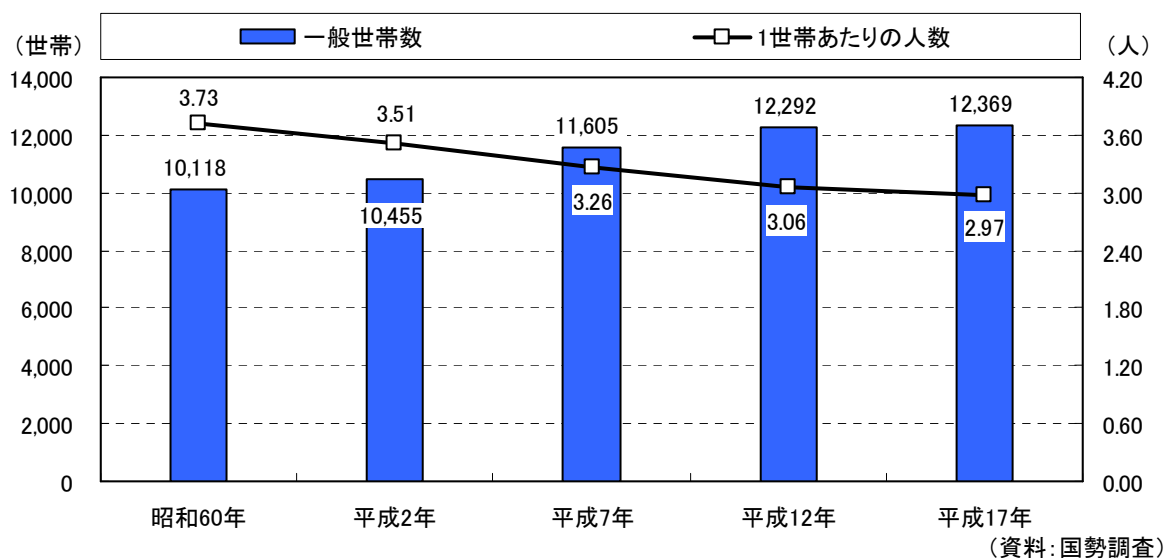
(資料:国勢調査 平成20年のみ住民基本台帳10月末)

※ 端数処理のため、比率の合計が100%にならない場合がある。

### 3. 世帯の状況

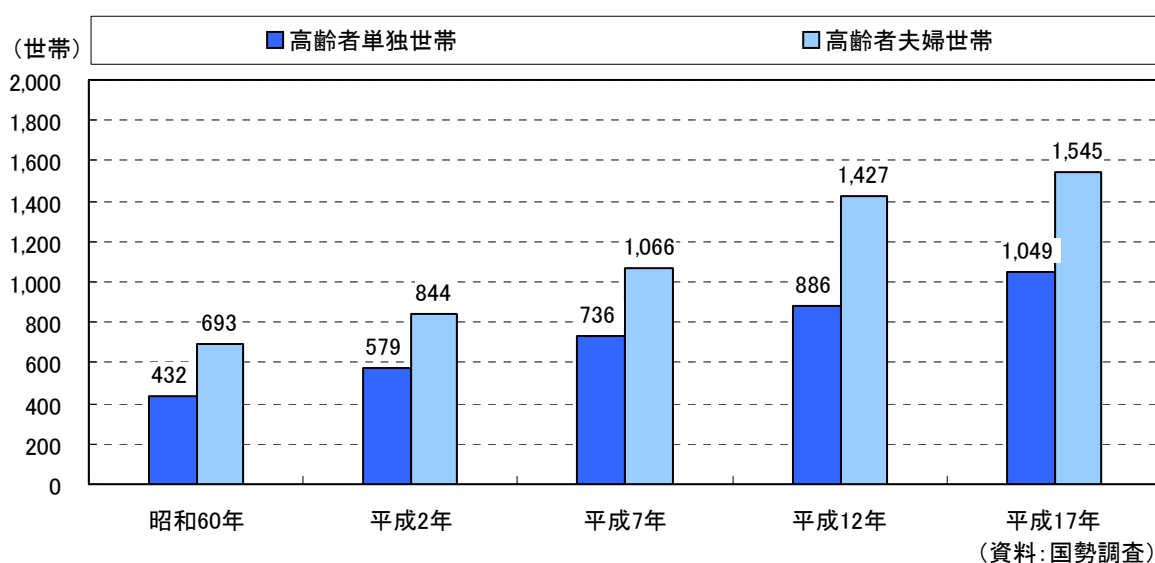
#### (1) 一般世帯数の推移

一般世帯数の推移をみると、増加傾向にあります。一方、1世帯あたりの人数は減少しており、昭和60年の3.73人に対して、平成17年には2.97人となっています。



#### (2) 高齢者単独世帯数及び高齢者夫婦世帯数の推移

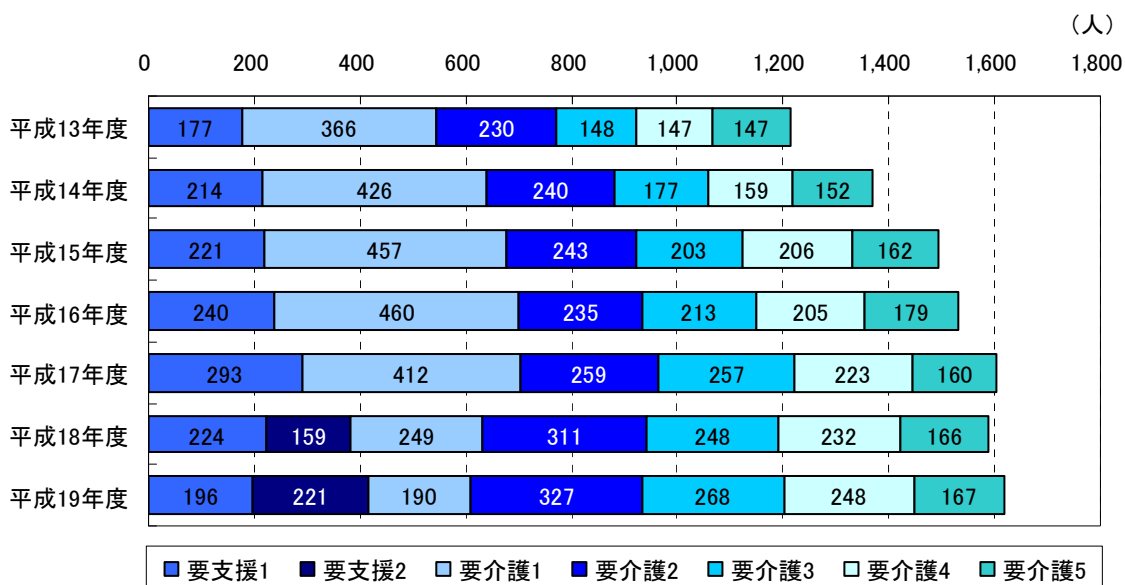
高齢者単独世帯数及び高齢者夫婦世帯数の推移をみると、双方ともに増加しています。高齢者単独世帯は平成17年が1,049世帯と、昭和60年に比べ約2.43倍に増加しています。高齢者夫婦世帯は、平成17年が1,545世帯と、昭和60年に比べ2.23倍に増加しています。



## 4. 要介護認定者の状況

要介護認定者の状況をみると、年々増加しており、平成19年度には1,617人となっており、平成13年度に比べ、402人増加しています。

また、制度改正後の平成18年度に比べ、要支援2で62人増加しています。



(資料:介護保険事業状況報告 各年度末)

※ 平成17年度までの旧要支援は要支援1で表しています。

※ 平成18年度より制度改正にともない、要支援が「要支援1」となり、要介護1が「要支援2」と「要介護1」となっています。

## 5. 南丹市の高齢者を取り巻く状況

616.31km<sup>2</sup>、森林が87.6%を占める本市は、自然環境に恵まれています。高齢化も進行しています。本市の高齢化率は年々1%ずつ上昇しており、平成20年10月末で28.9%と全国平均の21.5%を大きく上回っている状況であり、また国推計の2015年26%という数字もすでに上回っています。

平成17年において、ひとり暮らし高齢者世帯は1,049世帯、高齢者夫婦世帯は1,545世帯と増加傾向にあり、これらの世帯を合わせると本市の世帯数の約2割を占めています。アンケート調査の結果によれば、こうした高齢者は不安を感じながら生活しており、心の支えは自らの子どもであるという状況となっています。

高齢化の進行にともない、山間地域では近隣同士での助け合いが難しい状況になりつつあり、コミュニティの崩壊が懸念されます。65歳以上が過半数を占める、いわゆる限界集落も増加しており、園部地区の中心地でも存在しています。また、地区役員や隣組役員も

高齢化で役員体制が組めないといった、まさに地域コミュニティの崩壊危機にあります。

さらに、山間地域での生活維持も困難化しています。山間部の交通手段は自家用自動車为主で、高齢者にとっても生活物資の確保や通院といった在宅生活を支える重要な交通手段であります。しかし、高齢化にともない自動車の運転ができなくなる人も増え、高齢者の交通手段が途絶えかけています。また、これまで山間部で農林業を支えてきた人たちにも高齢化の波が押し寄せ、農林業に取り組みなくなったことにより、農地や里山は荒廃しつつあります。

これらの高齢化の課題に対しては、本市として総合的な対策が必要となりますが、高齢者に対する福祉事業としては、高齢者がいつまでも健康で、住み慣れた地域で安心して生活し続けられるよう、引き続き高齢者の自立支援、社会参加の促進、安心と支え合いの仕組みづくりに取り組む必要があります。